

地域包括ケア：誰もが安心して暮らせるまちに

公立浜坂病院と老健（ささゆり）は、いくつになっても住み慣れた地域で暮らし続けるためには欠かせない存在です。（2023年では、浜坂病院を含む国内の公立病院の約7割が赤字経営でした。）また、保護者の子育てと就労の両立を支えるためには、一般の認定こども園とは別に、町内で、『病児・病後児保育事業』を早期に実施する必要があります。

しかし、『病児・病後児保育』を利用する子どもの人数は決して多くはありません。そのため、病気で体調に不安がある子どもや、回復期の子どもを安心して預けることができて、なおかつ、町の財政にはできるだけ負担が少ない事業形態で実施する必要があります。

町が大きなお金を掛け、新たな施設を建設して民間に事業委託するのではなく、今ある施設を有効活用して、子どもの健やかな育ちと家族を支える『病児・病後児保育事業』が一日も早く実現することは町民皆の願いです。町民の拠り所である浜坂病院に関わっていただき、『病児・病後児保育事業』を前進させたいと願っています。

どうなる？巨大 風力発電プロジェクト

前回の通信発行以来、新たな情報はありませんでした。

子ども園整備に関して

行政は、すみやかに課題解決に取り組む責任があるとの思いで議員活動を続けてきました。そのため、浜坂認定こども園整備に関して、1期目当初から解決に向けた提案をし続けてきました。

（通信第6号以降23回掲載）

しかし、8年間、町当局は災害対応や大庭認定こども園との統合など議会側の大勢意見を汲み取ることによる解決を図ろうとはされませんでした。

令和6年度の出生者は、全町で39名。8年前の半数以下です。就学前のこども施策に関する交付税算定は、子どもの数が単位となっており、小中学校のように学校数単位の算定はありません。統合しても交付税は減りません。

つまり、こども園を集約すれば、職員さんの勤務にゆとりが生じ、0歳児保育を初めとする保育環境と就労環境の充実・改善につながります。

岩美町内の保育園は悪天候でも休園したことはなく、中途受入も万全だとのことです。

求められる多様な保育環境の改善は急務だと思います。

容認できない、その他の行政施策

集落内町道改良事業

海上の集落内町道改良事業において、空き家への3500万円もの（立ち退き）補償、その額の算定のための委託費を450万円へと各倍増超の補正予算が昨年、提案され、可決されてしまいました。

町民の利益を考えれば、町道は補償費用の高額化を避けるように計画するべきです。町内には、取組むべき課題がたくさんあります。無駄遣いは許されません。町内の空き家が低価格で取引されている現状からも、残念でなりません。（通信第26号）

町内、二つの下水道料金制度

新温泉町が発足して20年の今、旧浜坂町と旧温泉町とは異なる下水道料金制度のままです。

平成29年3月議会で、統一するための議案が否決されたことは、知っていましたが、これまで取り組んで来なかつたことを反省しています。担当課長を最後に退職された方が、熱心に料金統一の活動に取組んでおられ、お話を伺いました。

同僚議員が度たびの一般質問で、町長を質しましたが、先延ばしの答弁に終始されました。更に、広報しんおんせんの昨年7月号では、『借入金（現在、会計区分もされていない）の返済が済むまでは統一できない。』と述べておられます。同一自治体の公共料金の格差解消は必須です。（その他は次号に掲載予定。）

おもしろ昆虫化石館

今年5月25日、神奈川県に住む幼馴染の同級生から、日経新聞に新温泉町で発見された化石の蝶が『世界最大の新種の蝶』だと掲載されていたとのラインメッセージと写真が送られてきました。早速、インターネットで確認したところ、化石として発見された蝶として世界最大で、発見された先生の名前を取って『カミタニオニミスジ』と名付けられたことを知りました。

翌日、おもしろ昆虫化石館を訪ねると他の展示物と共に変わりなく展示されていました。

新温泉町にとって「おもしろ昆虫化石館」の存在も大変貴重に思えました。

お盆を迎えて、ふるさと新温泉町に帰省された方々もおられたと思います。最後までお読みいただきありがとうございました。ご意見、ご感想などをお聞かせいただけますと幸いです。尚、残暑の折、御自愛ください。



町政報告 2025年夏 第31号

栎の実 通信

（ただっちゃん つうしん）



新温泉町議会議員

かわ ごえ

河越ただし

住民の幸せ追求が町政のつとめ

発行：河越 忠志

T 669-6801 新温泉町井土 978-1 TEL 0796-92-2428(事) 92-2550(自)
E-mail: take2428co@coffee.ocn.ne.jp https://www.facebook.com/tadashi.kawagoe.1

残暑お見舞い申し上げます。



にぎわいの復活を待つJR浜坂駅前

私たちの町の現状は・・・

残暑、お見舞い申し上げます。私は、皆様の温かいお力添えのお陰で、約8年の議員活動を、町の活性化と町民の幸せな暮らしの追求のために精一杯つとめさせていただきました。心から感謝申し上げます。

今回は、『栎の実通信』を通して、私の約8年間の活動の一部を報告させていただきます。

現町長が、令和7年6月議会で、3期目を目指しての出馬表明をされました。皆様が、私たちの大切なふるさと新温泉町の主権者として、町の未来と町民の幸せにつながるご判断をしてくださることを心から願っております。

浜坂駅前活性化は地域の願い！

JR浜坂駅前整備は、県が進める『県道浜坂駅港湾線整備事業』に付帯して、新温泉町に課せられた事業です。町では、令和3年度、『浜坂駅前周辺活性化方策検討業務』の委託料700万円を予算化しました。しかし、町からの業務発注は行われず、予算の執行はされませんでした。

担当課による「執行の取りやめ理由」として、①当該地域に地図の混乱があること、②地域の方々との意見がまとまらなかったことの2点が示されました。しかし、その後も、駅前商店街

の皆さんと町との意見のすり合わせはなされず、現在に至っています。

（通信第19、23、24号他）

6月24日に開催された『第2回 浜坂駅前整備にかかるワークショップ（参加体験型検討会）』にはJR浜坂駅前商店街の方々の姿はほとんど見られませんでした。

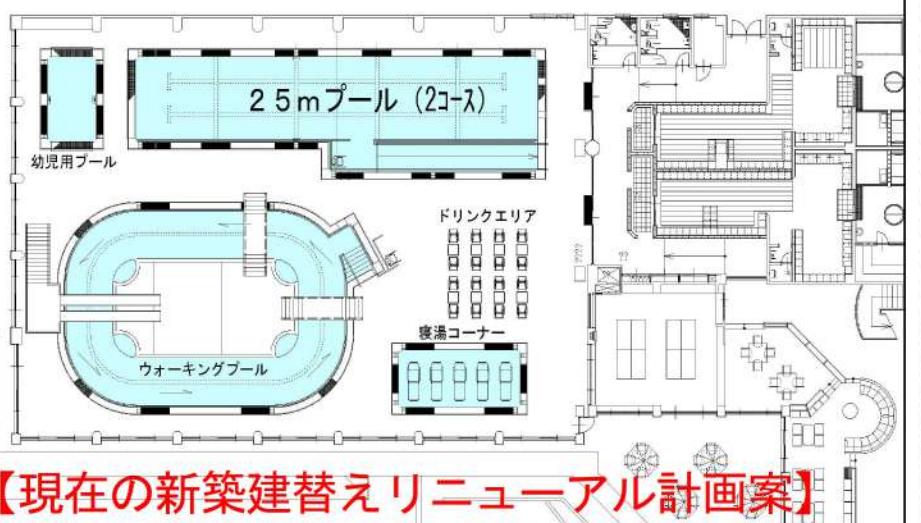
町は、9月頃に開催予定の第3回のワークショップを最後に、整備方針を決定することを表明しています。

JR浜坂駅前整備は交通などの利便性追求だけではなく、『地域の活性化』を目指す必要があります。地元の方々との対話や意見調整抜きでの方針決定はあり得ません。

また、『地図の混乱』については、最初から分かっていたことであり、私の6月の一般質問に対して、「地図混乱の解消は困難であると前町長から引き継いでいる」との町長答弁には、商店街で頑張って生業（なりわい）を続けて居られる皆様に対しての無責任さと口惜しさを感じました。町のあと少しの努力さえあれば少ない町負担で取り組める『地籍調査事業』を見出すことは可能だったはずです。地域の未来と住民の希望につながる事業推進であるべきだと考えます。

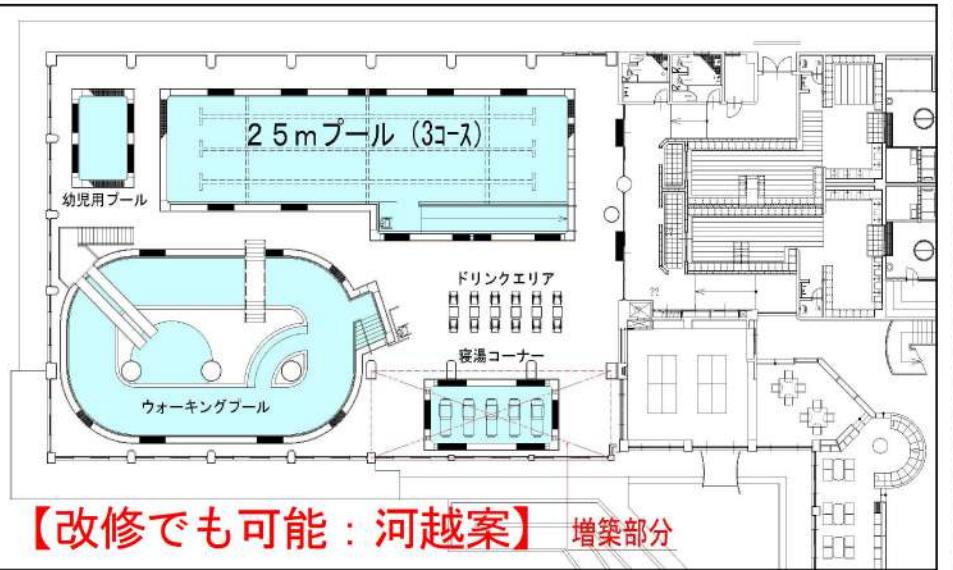
リフレッシュ館：町民に愛されてこそその公共施設！

リフレッシュ館 町民フルリニューアル計画



【現在の新築建替えリニューアル計画案】

予算案に対しての「25mプールを設けよ」との付帯決議に対応して、今年度に入って提出された『水泳プール25m×2コース』を設けた追加案。交付金申請は、この計画が基本になっているようです。



【改修でも可能：河越案】 増築部分

【河越提案】水泳用プールは、直線25m×3コースを確保し、その他の機能は、基本計画にならっています。これは、ほんの一例です。

建物は、改修と増築でも、プールのリニューアルは可能です。これまでのような、町民が憩えるリフレッシュであってほしいと思います。

担当課が行政視察した【マリンタラソ出雲『元気海プール】

6月議会初日の前日、出雲市多伎町にある「マリンタラソ出雲」を見学・体験してきました。平成の大合併前の多伎町が、第3セクターで運営する、宿泊棟を併設した健康増進施設です。

海水を加温した屋内プールの『元気海プール』を見学後、水着に着替えて、利用者の方々からお話をうかがいました。13km離れた自宅から毎日通つておられる男性をはじめ、会員の約7割が毎日利用されているとお聞きしました。毎日決められた時間に実施される『水中リズム体操』の参加者が指導スタッフと楽しんでおられる姿が印象的でした。平日は地元の利用者が9割、土日などは市外からの利用者が2~3割、年中無休のこと、年間会員の会費は、59,500円のことです。

事業の目的は何か？

町側の『建て替え以外に改善策は無い』との主張と『年間バス廃止』前提で進められてきました。『町民プールリニューアル基本計画（報告書）』の中には、建築関係者が作成したとは思えない内容や、『新築建て替え実施予定額が8億円で、リフォーム改修費用の見積額も同額の8億円』と不合理な内容があります。

私の6月議会での一般質問に対して、『決済はしたが、その文書は読んでいない』との町長答弁がありました。

『年間バスの継続という町民の切なる願い』置き去りの『おんせん天国』で良いのでしょうか。

誰のためのリフレッシュなのか

積み重ねてきた座談会のこと。リフレッシュ館の元ご利用者からの、「もう、リフレッシュにお金を落としたくない」との言葉に、「申し訳ない」気持ちでいっぱいになりました。

当初の目的に沿った経営方針に立ち返る必要があります。

利用者に愛される元気海プール



マリンタラソ出雲

8年間、進めることができなかつた、この町の重要課題

課題1) 近隣市町への若者などの流出

町内の若者が、結婚などを機に岩美町や鳥取市内に移り住む傾向があります。

また、県職員の方々が新温泉町内に赴任の際、町外の賃貸住宅から通勤されるといった傾向に対しても、複数の議員が町内での住宅施策を求めてきました。ようやく、今年度に入り、賃貸アパート建設への補助金制度が設けられました。役場内に設けた人口減少対策プロジェクトチームからの提案のことです。残念ながら現在までの応募者は無いようです。

この課題は、住宅施策だけで解消されるものではありませんが、まずは住宅施策からだと思います。これまでの議員による繰り返しの提言に耳を傾けず、町の対応が遅れたことが残念です。

課題2) 農村集落を維持することの困難さ

現在、町内の農村集落では、農地の保全が大きな課題となっています。耕作するだけではなく、農地を農地として『保全』したり、草刈りなどについても、高齢化による人手不足のために困難になってきています。

令和6年12月の一般質問で町としての対策を尋ねたところ、『町単独でこの農業の方向性を打ち出すというのは極めて難しいと思っております。背景には国の方針、これが大前提とあって、それぞれの地域の農業が成り立っている。』との答弁でした。連日の猛暑の中、農地を守り続けておられる方々に申し訳ない気持ちになりました。（通信第29号）

地方交付税算定の中に農家戸数を単位とする項目があり、その農家の定義に沿った農家戸数を増やせば交付税が増えます。直接、耕作しない農家も算定できるので、交付税の増加分を、町から各集落に交付する制度の創設を数年前から提案してきたのですが、『儲からない農業をする人はいないので、農家戸数を増やすことはできない。』との答弁でした。

工夫することにより交付税を増やし、集落維持のために活用できたのではないかと考えると大変残念に思いました。（通信第28号）

農家戸数は、本年2月に実施された農業センサスで確定しました。

この先5年間は減少した戸数に基づく交付税になります。

課題3) 財源が乏しいこと・自主財源を得ること

地方交付税は、歳入の少ない自治体が、基本的な行政サービスをする上で最低限必要となる金額（基準財政需要額）に対して、自治体が通常得られる税収等の総額（基準財政収入額）の75%との差額を国が補填するものです。一般的には、税収などの残り25%が自治体が自由に使えるお金だと言われています。（通信第13号）

令和7年度の新温泉町の税収等の総額（基準財政収入額）は約16億8千万円で、25%相当の4億2千万円が自主財源になります。しかし、過疎債などの7割が別途交付税措置される地方債（借入金）の返済については残りの3割は自主財源が必要になります。令和7年度の公債費（返済金）が約14億4千万円であることから、自主財源のほぼ全額が公債費に充当されることになります。

そのため財政的余裕はなく、特別の事業を行うには通常の予算を縮小するしか方法がありません。

『ふるさと納税制度』で全国の自治体がしおぎを削っています。経費を差し引いた全額が本当の自主財源になるからです。十分な保育・子育て支援や移住促進などの地域課題を解決する施策を行うには、自主財源が必要です。

私の1期目（6年以上前）から提案してきた、ふるさと納税を活用しての集落活動や地域の課題解決活動などに対して直接支援ができる制度の創設については、当初は、『実施は難しい。』との町長の答弁でした。その後、神戸市で実施されていることを紹介させていただいたところ、「確認していない。」と答弁され、理由をお聞きすると『神戸は神戸だ！』とのことでした。待ったなしの課題の解決が進まないことを残念に思いました。

課題4) (世界農業遺産) 但馬牛畜産振興における課題

令和5年7月、兵庫県美方地域を対象とした『人と牛が共生する美方地域の伝統的但馬牛飼育システム』が、国連食糧農業機関から、世界農業遺産に認定されました。わが国の黒毛和牛のなんと99.9%が但馬牛の子孫であるという誇らしいデータも確認されています。

人と牛の共生という点では、循環型農業を目指す必要がありますが、町内には堆肥センターがありません。畜産農家の多くは糞尿処理に困っておられます。町は設置を検討してきましたが、財政不足と採算性の面から未設置のままです。

町は今年7月、『地域資源循環型農業推進のまち』を宣言しました。課題解決に向けた責任ある姿勢が問われています。（通信第25号）